

9-1 褥瘡（じょくそう）

いわゆる「床ずれ」と呼ばれるもので、局所的で持続的な圧迫により血流が途絶え、その部分の組織が低酸素状態になって生じる壊死のことをいう。皮膚なら全身どここの部位でも生じる。

圧迫の他に皮膚局所の不潔、感染、浮腫、全身的な低栄養状態などが原因。

外観的に醜いだけでなく、痛みを伴うことがあり、全身的な感染症（敗血症）を引き起こすこともあり、高齢者の尊厳にもかかわる状態でもあり、可能な限り予防し、早期発見して治癒させるべき皮膚疾患。

治療法は褥瘡の状態によって異なり、外用薬や傷を覆うドレッシング材を使った保存的治療や、外科手術が行われる。

主な症状	<ul style="list-style-type: none"> ● 褥瘡がよくできる部位は、表皮と骨の間の層が浅く圧迫が容易に加わり、末梢血液の循環が阻害されやすい部位で、仙骨部、大転子部、肩甲骨部、踵骨部など。 ● 褥瘡はその深度によって皮内、皮下、筋層、骨膜とに分けることができる。
------	--

生活上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ● 原因を明らかにし除いていく。（長時間の同じ姿勢・栄養不良・移動時のこすれ・衣類の縫製があたる・敷布団が薄い・湿気がこもっている等） ● 代謝の改善（循環） ● 体勢のずれや長時間圧迫しないように気をつける。 ● 予防策として寝たきり、座りっぱなしの時間を少なくする。 ● 体位変換と体位変換後に発生した体勢のずれの介助（背抜き）。体圧分散マットレスの適切な活用。 ● 栄養状態の改善や皮膚の清潔、保湿を保つ。
---------	---

ケアマネジメントのポイント	<p>〈支援者の留意点・視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 早期発見できるように、事業者・介護者が定期的に観察する。 ● 栄養状態を改善する。 ● 創部の清潔、保湿を保つ。入浴は、清潔・身体を動かすため有効である。 ● 予防策をしっかりと実施できるようにプランに入れる。 <p>〈介護サービス事業者・医療関係者との連携のポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 尾骨やかかと、肩甲骨部分などに発赤を発見したら医療者に報告・相談し、必要なケアなどの指導を受ける。 ● エアーマット・体圧分散・体位変換器・クッションなどの福祉用具を状態に合ったものを選択し、使用指導。援助する。
---------------	--

代表的な薬	<ul style="list-style-type: none"> ● 潰瘍治療（アズノール、プロスタンディン、フィブラスト、アクトシンなど） ● 二次感染（エキザルベ、テラジアパスタ、ゲーベン、ユーパスタなど） ● 肉芽形成（オルセノンなど）
-------	--